

2017年度 どうぶつたちの病院 事業報告

どうぶつたちの病院では、2017年度も対馬および東京の2つのプロジェクトにおいて、ツシマヤマネコをはじめ野生動物の保護活動と飼育動物の適正飼養普及活動などに取り組みました。

2017年度はツシマヤマネコの保護件数が非常に多い年でした。スタッフにとっては貴重な経験となりましたが、医療チームとしてはまだまだ未熟であると痛感。1頭でも多くの傷病ヤマネコを自然に帰す事が出来るよう、日々の勤務から技術向上を目指し、臨機応変に対応出来る医療チーム作りを目指していきたいと思えます。

地域に根ざし、地域と共に、どうぶつたちの病院は今後も活動を続けてまいります。引き続きご支援いただけますようよろしくお願いいたします。

それでは、2017年度の活動の概要を報告いたします。

対馬プロジェクト

長崎県対馬に生息し絶滅の危機に瀕するツシマヤマネコの保護活動のため、本法人は対馬で対馬動物医療センターを運営し獣医師、動物看護師が常駐しています。2017年度は以下の事業に取り組みました。

■ ツシマヤマネコ保護事業 ■

現在のツシマヤマネコの個体数（推定）

70 または 100 頭

2017年度 保護された個体数 10頭

① ミサオ（愛称）

- ・2017年9月、交通事故（推定）で保護された。
- ・骨盤骨折による跛行が確認された。
- ・2018年4月、野生復帰の為のリハビリを経て放獣した。

② ベイ（愛称）

- ・2017年12月、衰弱により保護された。
- ・後肢断裂と腐敗が確認された。
- ・原因は罠と推測された。・治療を施すも、2日後に死亡した。

③ ハム太郎（愛称） ※2010年、2016年に保護

- ・2017年12月、衰弱により保護された。
- ・削瘦と腹水貯留が確認された。
- ・治療を施すも、4日後に死亡した（死因は肝硬変と診断された）。

④ ワイ（愛称）

- ・2017年12月、民家に設置された箱罠にて保護された（錯誤捕獲）。
- ・健康診断にて異常はなく、速やかに放獣した。

⑤ 豪（愛称）

- ・2017年12月、イノシシ・シカ捕獲用くくり罠にて保護された（錯誤捕獲）。
- ・右前肢の腫れとナックリング（神経麻痺）が確認された。
- ・2018年2月、治療と野生復帰の為のリハビリを経て放獣した。



⑥ モグ (愛称)

- ・2017年12月、民家に設置された箱罠にて保護された (錯誤捕獲)。
- ・健康診断にて異常はなく、速やかに放獣した。

⑦ ヤイチ (愛称)

- ・2018年1月、イノシシ・シカ捕獲用くくり罠にて保護された (錯誤捕獲)。
- ・右前肢の腫れと外傷が確認された。
- ・2018年3月、治療と野生復帰の為のリハビリを経て放獣した。

⑧ スイ (愛称)

- ・2018年2月、民家に設置された箱罠にて保護された (錯誤捕獲)。
- ・健康診断にて異常はなく、速やかに放獣した。

⑨ イブシ (愛称)

- ・2018年2月、顔面の外傷にて保護された。・2018年2月、治療後に放獣した。

⑩ トラ (愛称)

- ・2018年2月、民家に設置された箱罠にて保護された (錯誤捕獲)。
- ・健康診断にて異常はなく、速やかに放獣した。

交通事故による死亡 9頭

●本法人の職員を対馬野生生物保護センター (以下、TWCC) に常駐させ、TWCC で飼育されているツシマヤマネコの飼育、緊急的な保護、診療および健康診断の補助、野生で保護された個体の救護や治療の補助などを行いました (環境省受託事業)。

展示個体の福馬は2018年4月で14才になりました。年に数回の健康診断を行い、今のところ大きな問題はありません。ツシマヤマネコの最高齢 (20才) を目指して、今年も元気な姿をみせてくれると思います。

昨年から飼育しているナミちゃん (非公開個体、先天性心疾患) も今のところ元気一杯。性格は人見知り、それでもトレーニングの成果で心を開いてくれるようになりました。



ハズバンドリートレーニングの様子
(展示個体：福馬)

●国が進めるツシマヤマネコ野生復帰事業に向けたツシマヤマネコの生息環境整備のため、飼い主不明のネコ (ノラネコ、世話ネコ) の対策を実施しました。ツシマヤマネコの生息を脅かす原因のひとつであるノラネコからの感染症を防ぎ、将来的にはノラネコの個体数を減らすための措置です。対馬地区ネコ適正飼養推進連絡協議会と集落が協力して実施体制を構築し、本法人がネコの捕獲・運搬・不妊処置やワクチン接種、マイクロチップ挿入等の医療処置を実施し、捕獲集落にて放獣しました。今年度は上県町佐護 (さご)・女連 (うなつら)、豊玉町千尋藻 (ちろも)、美津島町鶏知焼松 (けちやけまつ)、巖原町上槻 (こうつき) で実施し、合計32頭のネコを処置しました (対馬市及び環境省

受託事業)。

ネコに困っていませんか?? ~やめよう、無責任な餌付け~



餌付けで増えたノラネコたちは、人にも他の動物にも、様々な被害をもたらします。
例えば・・・

- ・近隣住民宅での糞尿被害の発生
- ・人獣共通感染症の懸念
- ・ネコ同士の感染症蔓延 など

ノラネコ自身も、病気やケガ、交通事故に遭うなど不幸です。
結果的に、かわいそうなネコを増やしてしまうだけです。

対馬地区ネコ適正飼養推進連絡協議会では、ノラネコ不妊化事業を実施しています。
詳細については、下記の連絡先までお問い合わせください。

連絡先：対馬市 市民協働・自然共生課：0920-53-6111



人と動物との共生のために・・・ ノラネコ不妊化事業について

対馬市では、地域のノラネコの数を減らし地域の生活環境の改善を図るため、
対馬市ネコ適正飼養条例に基づき、島内におけるノラネコ不妊化事業を展開しています。

住民

- ・集落として対策に取り組むことに同意
- ・集落単位での事業への応募
- ・説明会への参加
- ・処置後の地域ネコの監視
- ・新規流入ネコの確認→市への連絡
- ・無責任な餌やりの禁止



連携

協力

対馬地区 ネコ適正飼養推進連絡協議会

- ・ノラネコ不妊化事業参加集落を公募
- ・一定条件を満たした対象集落を決定
- ・説明会開催
- ・捕獲及び不妊化処置を実施
- ・捕獲地で放獣
- ・実施後のフォローアップ



住民と協議会とが協力し、共に取り組んでいきましょう。

ノラネコ不妊化事業実施の流れ

①：公募

ノラネコ捕獲事業対象地域を公募捕獲事業実施後も継続して、監視体制がとれ、かつ地域全体としてネコの適正飼養に取り組む意思があることが条件となる。

②：対象地域説明

協議会が実施する内容及び地域に協力してもらいたいことについて改めて説明会を実施。連携した取組みとする。



③：捕獲・搬送 不妊化処置

協議会が箱ワケにて捕獲を実施。地域に飼い、病院へ搬送します。



④：放獣

処置済みノラネコは目印として耳先をカットして放獣します。地域で見守って下さい。



⑤継続した監視・連絡

地域に、耳カットがされていない新たな個体を発見した際は、協議会へご連絡下さい。



ゴール：集落の未処置ネコをなくし、将来的にノラネコを根絶

●また、飼い主不明のネコだけでなく、飼養ネコに対しても、適正飼養推進~人とネコの共生をめざし、のべ 85 頭のネコに対して、不妊処置、ワクチンやマイクロチップ挿入等を行いました（対馬地区ネコ適正飼養推進連絡協議会による「ネコ生活サポートキャンペーン」事業）。

■ ツシマヤマネコ以外の野生動物保護事業 ■

本法人対馬動物医療センターにて 12 件の野生動物を救護しました。

内訳：アオサギ(1)、アカエリヒレアシシギ (1)、アマサギ(1)、オオコノハズク (1)、コウライキジ (卵)、シジュウカラ(1)、スズガモ (1)、チュウサギ(1)、トビ(1)、ハイタカ(1)、メジロ (1)、ツシマテン (1)

予後：野生復帰 4 、死亡（安楽死・来院時死亡含む） 8
終生飼育 2羽



浮遊テスト中のスズガモ

■ 一般診療事業 ■

対馬市北部にある唯一の動物病院として、本法人対馬動物医療センターにて1,389件の診療を実施しました。

■ 教育普及活動 ■

● 動物愛護週間イベント「わんにゃんフェスティバル」

(9月16日対馬市内/九州地方環境事務所および長崎県獣医師会对馬支部主催、対馬振興局及び対馬市共催)を開催運営しました(来場者数258名)。



ふれあい動物園



パネル展示

● ツシマヤマネコを飼育している動物園でのイベント参加

京都市動物園 「ヤマネコ博覧会」(10月14~15日)

ブースを出展し、活動紹介のパネル展示、オリジナル商品の販売のほか、来園者を対象とし、次の2種類のプログラムを実施しました。

「ヤマネコの実際の大きさを知ろう!」

: 見ることは出来ても目の前で大きさを体験してもらうことが難しい。ヤマネコの石膏製足型、等重ぬいぐるみを使ってヤマネコの大きさや重さを体感してもらいました。

「飼育員にヤマネコへのメッセージを伝えよう!」

: 飼育員が着ているTシャツに対馬のヤマネコに伝えてほしいメッセージやイラストを描いてもらいました。



井の頭自然文化園 「やまねこ祭」(10月28~29日)

ブース出展のほか、井の頭自然文化園オリジナル(企画・制作・文:NPO どうぶつたちの病院)の「ツシマヤマネコかるた」を使ってかるた大会を行い、楽しみながらツシマヤマネコの特徴や現状を知っていただきました。



東京プロジェクト

世界自然遺産である小笠原の野生を守る活動を 2005～2014 年まで実施しました。2011 年からは、福島の子ホンザルの健康調査等に取り組んでいます。

■ 福島市の野生ニホンザルの放射能による健康被害調査に参加 ■

2011 年 4 月以来、1111 頭の調査を実施してきましたが、これまでに筋肉中のセシウム濃度と抹消血球数に負の相関関係があることが判っています。また、新たに筋肉中のセシウム濃度が高い母ザルでは、胎児の成長に影響があることが判りました。(京都大学霊長類研究所共同利用研究助成)

■ 下北半島に生息する北限のニホンザル健康調査に参加 ■

下北半島のニホンザルは国の天然記念物および絶滅に瀕した地域個体群として保護されてきましたが、2012 年より個体数調整が始まったため、現地で殺処分された個体について日本獣医生命科学大学が中心になって調査を行っています。調査頭数は、2018 年 4 月 21 日現在で約 700 頭。

● 学会での出展 日本霊長類学会大会 (7 月 15～17 日)、日本野生動物医学会大会 (9 月 2 日)

■ 小笠原の状況 ■

2011 年 6 月に世界自然遺産登録され、2017 年 4 月に「小笠原世界遺産センター」が完成しました。センター内には、獣医師 (東京都獣医師会) が常駐し、野生動物の保護や家庭飼育動物の適正飼養推進活動、捕獲されたネコの体調管理などを行う「動物処置室」も設置されました。

2005 年以来、島外に搬出された飼い主のいないネコは、805 頭(2018 年 5 月 1 月現在)となりました。2011 年に捕獲されたネコの待機所である「ネコ待ち」が出来てからは、(公社) 東京都獣医師会への搬出以前に、現地でネコの引き取り希望者が現れることもあります。

2005 年に小笠原で最初にネコの排除活動が始まった母島南崎では、2009 年からオナガミズナギドリの巣立ちが再開。カツオドリは、2014 年に営巣を再開し、無事巣立ちを迎えました。また、2018 年 2 月、ネコによる捕食が始まってから飛来が途絶えていたオーストンウミツバメの飛来が確認されました。2008 年の国際ワークショップ開催時点で、推定生息数 40 羽程度と言われていたアカガシラカラスバトも 600 羽程度 (2016 年時点) に回復し、ワークショップの目標だった 1000 羽に近づきつつあります。2017 年からは、繁華街にある大神山公園で営巣しはじめ、2017 年、2018 年ともにヒナが巣立ち、生息数が増えるにつれ、放し飼いの飼いネコによる捕食防止や交通事故対策などの緊急対応を行う事態になっています。2018 年 7 月 19 日、父島南端の南崎半島部においてカツオドリの営巣集団を確認したと報告がありました。報告は、海鳥調査を行った現地の NPO 小笠原自然文化研究所からで、小笠原でネコの排除活動が始まる以前の 2005 年には、営巣が途絶えていた地点だそうです。

収支報告

		(単位：円)
収入の部		
	会費収入	110,000
	寄付金収入	1,405,284
	助成金収入	0
	事業収入	31,291,531
	その他（雑収入、受取利息など）	5,363
	計	32,812,178
支出の部		
	事業費	
	対馬プロジェクト	23,559,644
	受託事業	(14,735,889)
	独自事業（動物診療）	(8,269,267)
	普及啓発事業	(554,488)
	東京プロジェクト	0
	管理費	6,937,239
	計	30,496,883
	当期収支差額	2,315,295
	前期繰越収支差額	34,798,672
	次期繰越収支差額	37,113,967

2017 年度事業報告は以上です。